

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500681
法人名	社会福祉法人 樹陽会
事業所名	グループホーム 湧泉荘
所在地	〒856-0024 長崎県大村市諏訪1丁目670番地1 (電話) 0957-48-6882

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月28日	評価確定日	平成20年2月19日

## 【情報提供票より】(H19年9月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート		
	3 階建ての	階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	実費負担	円
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1000 円		

### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名	1 名
要介護3	1 名	要介護4	4 名	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名	0 名
年齢	平均 89.8 歳	最低 83 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上田記念クリニック 中澤病院 祐田歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院のビルの2階に設けてあり、近隣には、JRの駅や商店街が立ち並び住民と馴染みながら過ごせる立地条件と利便性に優れたホームである。リビングの窓が大きく、日差しの差し込みはブラインド等で調節されて明るい雰囲気である。玄関には、ベンチとテーブルを設け地域の方々や挨拶を交わすことが出来るように配慮されている。玄関口や階段の壁に入居者と共に手作りされた作品を飾られている。リビングの中央に額入りの理念を「一人ひとりの個性を生かし、ありのままの姿を受け入れ、共に幸せな日々が送れる様に」と掲げ、職員は、入居者に寄り添うようにさりげなく明るく接して尊厳を持ってケアに取り組まれている。入居者が、ゆったりと過ごせるよう一人ひとりを大切に、より良いケアを提供できるよう研修会には積極的に参加されている。今後の更なる取り組みを期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、改善計画シートを作成して、職員が話し合い取り組んだ経過を表しケアの方向性の統一と質の向上に向けて取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に対する取り組みについては、事前に研修を受け、ミーティングを行い、全職員で日々の介護を見直し質の向上に向けて、ひとつひとつ詳細に取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議を設置され2ヶ月に1回開催されている。家族の代表者・大村市地域包括支援センター長・地区の代表者・職員を含め6名で構成されている。会議の主旨を理解して頂き、すでに8回目を終えられている。主な討議内容は行事の活動報告・予定報告の他「ぼっかぼっか通信」の紹介等、短時間の間に双方向的な情報交流がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議には、家族の代表者も参加されており会議での双方向的な意見をミーティングで検討後、ケアに反映して改善に努められている。又、重要事項説明書に苦情相談機関等の明示と相談員を設けられている。入居者の家庭を訪問して些細な情報も知らせるように努められている。ホーム便りは、職員の担当を決め、個別的に作成して2ヶ月に1回、写真入りで生活の様子を家族に報告されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの玄関にテーブルとベンチを設けてあり、入居者と地域の方々との挨拶運動に活用されている。ドライブや地域の盆踊り大会等に参加して、外出の機会を設けているが入居者の状態に考慮して無理をしなくて良いのではないかと家族の了解もあり、入居者の立場に立って地域の人との交流に努められている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の方々と馴染めるように関係の構築を目標にミーティングで話し合いを重ねられている。現在は、開設時の理念「一人ひとりの個性を活かし、ありのままの姿を受け入れ、共に幸せな日々が送れる様に努める。」に沿って、介護に取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのリビングに額入りの理念を明示され、全職員の意識付けに努め、入居者に寄り添いゆったりと関わりを持たれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事など、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームの玄関にテーブルとベンチが設けてあり、入居者と地域の方々との挨拶運動に活用されている。ドライブや地域の盆踊り大会等の行事へ参加して外出の機会を設けているが、入居者の加齢に伴い無理をしなくて良いのではないかとと言われる家族の了解もあり、利用者の立場に立って地域の人との交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価については、改善計画シートを作成して具体的な改善に向けて取り組まれている。今回の自己評価においては、事前に研修を受け、ミーティングを行い全職員で日々の介護を見直し、質の向上に向けてひとつひとつ詳細に取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回実施されており、すでに第8回目を終えられている。大村市地域包括支援センター長・家族代表・地区の代表者・職員を含め6名で構成された会議である。会議の主旨を理解して頂き、会議の内容は、行事の活動報告と予定報告の他、ぼっかぼっか通信の紹介等情報交流がなされている。		

グループホーム 湧泉荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向き、直接報告書の提出をして積極的に情報を得るように心掛けているが、地域活動への助言など行政からの指導が思うように得られていない。		運営推進会議への行政の出席及び行政の助言が得られるように継続して積極的な働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族の申し出の金額を預り金として、預り証を発行されている。金銭出納帳を毎月明示と報告を行われ、家族に確認をして頂き捺印を得られている。職員の担当者を決めて、個別的にホーム便りを作成して2ヶ月に1回写真入で生活の様子を家族に報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、家族の代表も参加され意見をミーティングで検討後、ケアに反映して改善に努められている。又、重要事項説明書に苦情相談機関等の明示と相談員を設けてある。入居者の家庭を訪問して、入居者の些細な情報も知らせるように努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの職員が、継続的に親しむ事が出来るように、離職を最小限に留める努力をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員一人に年2回を目途に研修後は、報告書と資料を全職員が閲覧できるよう取組まれている。ケアセミナーに2ヶ月に1回参加され、入居者のレベルにあった研修への促しに努められている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のグループホーム協議会に参加され、事例検討会や大村市痴呆性高齢者グループホーム連絡協議会の相互評価により質の確保に取り組まれている。他に、職員相互の交流の場である「各駅停車」に参加されレベルアップとストレス解消に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望があれば、病院へ出向き家族を交えて話し合い情報収集に努めサービス利用をさせていただいている。入居者の個々のペースに合わせ、薬の依存症を解消する工夫をし、表情が良くなられた事例もあり、職員と徐々に慣れ親しんでいく様に努められている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と職員それぞれに、担当を決めて関わりを持ち入居者のできる事への支援に努められている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望に沿うよう入居者の行動や表情等から、把握して対応されている。又、申し送りノートを活用して、職員間の共有を図られている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員会議は、月2回実施され職員の気づきや意見を反映した介護計画を作成して、利用者主体の個別具体的な計画書他に計画作成担当者である看護士の目線で必要な熱計表(体温・脈拍の記録)を作成され、家族の同意を得て取り組まれている。今後も、介護計画の明確化に努め職員間の方向性への統一を検討されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態の変化が無くても、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、次の計画に繋がる様、職員・家族の意見を基に作成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理学療法士の指導を受け、併設のデイケアを利用して無理な訓練を控え、生活の中で個別的な歩行の促しをしたり、入浴やりハビリで機能訓練の支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診は、年2回健康診断を行い必要に応じかかりつけ医の受診を受けられるよう支援されている。専門医の受診が必要な時は、家族の状況に応じて同行をお願いしたりして、適切な医療を受けられるように支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針で看取りの方針は取られず、家族も医療処置は望まないとの意見もあり、その時々状況に応じ相互の話し合いで方針の統一を図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーの確保の為に、入居者への言葉掛けは十分に注意されており、個人情報に関しての取り扱いも厳重で利用契約書に明示されている。他に、事例検討会で資料を報告するときは、事前に家族に同意をいただき、イニシャルなどで発言して取り扱いに配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に沿ったペースを大切に、入居者にとって新しい一日となるよう言葉掛けや触れ合い等、できることを工夫してひとり - 人の体調を考慮した介護に努められている。		

グループホーム 湧泉荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問日、入居者と職員と一緒に調理された昼食を楽しみながら味わい、介助の必要な方にはさり気なく入居者の出来ることを無理なく支援されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、2日に1回で夏場は毎日利用されている。入居者の入浴拒否はなく、無理の無い入浴を心掛けられている。失禁時は、シャワーや清拭で清潔を保持して気持ちよく過ごせるように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることへの支援に努め、手作りの作品作りや、日めくりカレンダーの交換をして頂いたり入居者の力量に応じて支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調を考慮して外出の機会を設け、近くの商店へ買い物に出かけ、お金を渡して、ひとつでも好きなものを買って貰えるよう支援に努められてある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	訪問日だけでなく日中は施錠をしていない。玄関に鍵をかけることもなく、法人内の職員が挨拶に来られ開閉の都度、チャイムが鳴り、出入りへの配慮をされている。職員は、入居者にさりげなく安全に配慮して対応されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画及び風水害、地震等の災害に対処するための計画を定め、地元の消防団の協力を依頼していたが都合で参加出来なかったが、年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施されている。重要事項説明書に、スプリンクラー設置等の防災設備等の概要を明示されている。		

グループホーム 湧泉荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者のひとり一人の体調の変化に合わせて、バランスよく調理して食事をされるので、糖尿病の方の血糖値のコントロールも良好になり家族の安心に繋がっている。法人内の管理栄養士に専門的アドバイスを受けられている。一日の水分摂取量は、1000CC～1500CCを目途に配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広い窓ガラスなので全体的に明るく日差しをブラインド等で調節され、入居者の好みの音楽が流れる中、食事やおやつを職員と共にゆったりと過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、色違いの手作り暖簾で入居者の見当識に配慮した部屋作りに取り組み、箆笥や身近な小物を持ち込まれ、入居者が安心して過ごせるよう配慮されている。		